

# 全仏

NO. 228

5 / 52



## 明日へむかう

『二十一世紀における仏陀のメッセージ』今大会のメインテーマである。

仏陀の教えは、不変恒常のものであるが、それを展開していく方法論は、その時代の背景が加味される。

「二十一世紀における仏陀のメッセージ」も、現在を十分認識し、それを立脚点に進められるべきものであろう。

大会までに五百式拾有余日、この間に仏陀の教えを信奉している人々の叡智を集め、立派なメッセージを考えあげて行きたい。

また、メッセージが考えあげられたならば、それを実践すべく、種々の運動を展開し、行動する宗教の面も大いに強調して行くべきである。

写真は、WFB日本大会の諸問題などを審議する全仏常務理事会—四面参照

# 21世紀におくる仏陀のメッセージ

## 第12回 WFB 日本大会テーマまきまる

第十二回世界仏教徒会議日本大会（WFB日本大会）の実行委員会は、三月十二日の準備委員会の席上で正式に発足、総務委員会など九委員会が構成され、そ

の構成メンバーが承認された。（委員会の委員は多少配置替えされた）この実行委員会の発足により、俄かにあわただしくなり、彼岸明けにはまず第

一回の総務委員会が開かれ、つづいて各委員会委員長会議やそれぞれの委員会が開かれ、まずテーマ「二十一世紀におくる仏陀のメッセージ」やスローガン、趣

意書、業務分担などが決められた。事務局も数次にわたる局内会議やミーティングを開いて検討を重ね、資料を整備するなど実動体制に入っている。

### 委員長会議開く

WFB日本大会実行委員会の各種委員長会議は、四月十二日午前十一時より、東京本願寺の大谷ホール一階会議室において開催された。

この会議には、実行委員会の副委員長と各種委員会委員長（委員長欠席の場合は代理者）、WFB事務局が出席、鱒淵事務総長の座長で審議に入った。

議題は各種委員会の業務分担の確認に関する件で、事務局提出の資料にもとづいて意見の交換がなされ、内容的には勧募に関する事項について質疑が集中したが、出席された各師は大局を把握され、若干の修正をして別記のごとく了承された。

出席者（敬称略順不同）

- 板井大乗、新聞信雄、真溪義貫、浅井堅教（以上実行委員会副委員長）、白川良純（総務）、摩尼清之（渉外）、村野宣忠（広報）、久保楚太清（勧募①）、郡司博道（勧募②）、小林忍戒（勧募③）、北条賢三（会議）、高辻円雄（式典）、花山勝友（記念事業）

### 委員会業務分担

【総務委員会】人事、文書等を含む庶務、企画、局間調整、他のいずれにも属

## 大会開催趣意書

従来、自然は

無限であると考えられていたが、有限の世界であり、人類もその中で謙虚に生を営むことを要求されている。

われわれは、仏教の立場から人類の進むべき道を明らかにする責任と使命があると痛感する。

生命尊重の見地からみる人口問題、食糧やエネルギー等の資源問題や工業

化による公害問題、先進国と開発途上国との間における南北問題等、現代社会における具体的諸問題を考慮しつつ、新しい人類の価値観を確立し、具体的実践的に仏教の本旨を生かさなければならぬ。

昭和二十七年（一九五二年）日本において第二回世界仏教徒会議を開催し

てからすでに四半世紀の歳月が流れた。しかしその間、仏教徒として十分の責務を果たして来たかを、深く反省せざるを得ない。

二十一世紀を迎えるのは、今日より四半世紀に満たないのであるが、現状のままでは、二十一世紀における人類の存在が保証されているわけではな

い。まさに人類は、その未来を輝やかしいものにするか、自らを暗黒の底につき落すか、重大な岐路に立たされている。この時にあたって、昭和五十三年（一九七八年）十月、第十二回世界仏教徒会議を日本において開催することは、極めて意義の深いものがあると確信する。

釈尊が、いまこの世に出現されたならば、いかなるみ教を垂れるであろうか。「二十一世紀におくる仏陀のメッセージ」をテーマとして、世界の仏教徒が一堂に会し、真剣な討議を通じて、交流と連帯を深め、新しい価値観の確立に努力するとともに、未来を照らす具体的方策をもって世界にアピールし、人類の平和と福祉に寄与せんとするものである。

さるもの。

大会インフォメーションの設置、会議出席人事、参加者リストカード作成、参加者登録、入場券配布、歓迎大会等手伝い動員、礼拝導師選定、起草委員日本側スポークスマン、関西事務局との打ち合せ、特別寺院の選定と待遇、組織委員会の役割と人選について、全体スケジュール、記録全仏以外へのアプローチ(対理事会)出版物、名宝展、墨跡展の企画、実施。

【記念事業】仏教英語学生養成、記念品、勸募帳・勸募袋の作成、景仏への調整。

【経理】会計、勸財、給与規則。



業務分担任を協議する委員長会議

【渉外】国内外組織等連絡調整。

WFB本部との連絡、地方大会、来日代表団日程、通訳依頼、地方随行スケジュールと人事、国内外案内、全仏以外へのアプローチ。

【広報】国内外広報(新聞、ポスターリーフレット)

日報・会議報告、タイプライタープールの設置と担当者選定、記者会見スポークスマン。

【式典】歓迎大会(武道館)、地方大会企画準備。

スケジュール・プログラムの作成、参加者輸送と動員、講演者・祭典出演者の選定と依頼、会場設営と選定

【会議】会議の企画準備。

会議資料の作成、会議場予約と設営分科会の案内と出席(一般参加者)パネルディスカッション(パネラー会場、参加者、案内等)、会議業社依頼。

【接待】歓迎、宿泊、レセプション輸送。

来日代表団ごとの日程表、歓迎迎スケジュールと人的配置、ホテル予約と部屋割、滞在についてのオリエンテーション、レセプション主催団体依頼、輸送スケジュール表(送迎・観光)、旅行業社依頼、医療関係手配。

### 総務委員会

第一回総務委員会は、彼岸明けの三月二十五日午後一時半より、全仏会議室に

おいて開かれた。この総務委員会は、人

事、文書、企画、局間調整等をかかえるため、各委員会のトップに開かれ、WFB日本大会全般に関する諸問題を討議した。特にテーマについては、公募したテーマの審査がおこなわれた。(応募作の中に入選作なし)その他にまず委員長会議を開くことという指示がだされた。

第二回総務委員会は四月十二日午後二時より、全仏会議室において、左記の議題で開催された。

#### ①趣意書について

開催趣意書は種々案が提出されているが、これを一本にしほること。これについては、白川委員長と、塩入、杉谷、西村の各委員の間で協議し、早急に成文化することです承。

#### ②テーマ、スローガンについて

テーマは種々案が出されたが、未来にむかってというイメージから「二十一世紀における仏陀のメッセージ」に決定。スローガンについては、いくつあってもよいということで、まず全体的な見地から「世界の仏教徒は連帯と交流を深め、仏陀の教えを実践しよう」が出された。

#### ③規則について

事務局仮案について、白川委員長と伊東委員で成文化し、委員会にはかることになった。

### 式典委員会

「式典委員会」が四月十九日午前十時より全仏会議室で開かれ、歓迎大会を中心に討議された。

一、歓迎大会は武道館でなくてはいけな

いのか。もし武道館なら、それに専念する事務局員が数人必要である。また現在の予算をオーバーすると思う。

一、式典内容として、雅楽、日本の祭り仏教讃歌、万灯、江戸消防、念仏おどり、人間マーチングバンドなどをアトラクションとして考える。ただその出演者は東京近辺がよい。

一、武道館以外ならば、国立劇場、東京文化会館、日比谷公会堂、サンケイホールなどどうか。

### 会議委員会

第一回の会議委員会は、四月十六日午後四時より全仏会議室で開かれた。

第一回で頓合せの意味もあったが、金岡秀友委員長を中心に、最初から熱のこもった討議がなされ、大要次のようなことが話しあわれた。

歓迎大会等の日取りが正式に決まらないうと、会議日程などの方に影響があるので早急に決めて欲しい。

十月一日は都民の日でもあるので、歓迎大会は九月三十日に繰上げた方がいいのではないかと。

移動等を考え会議と宿泊場所は同一にし、寺にては式典のみの方がよい。赤坂プリンスホテルの中に国際会議の専門業社があるが、そういった業社使用の問題も考えた方がよい。

次回は会議テーマ、各委員会の内容・規模・人数・パネルディスカッションのテーマ・パネラー等を議題とする。



# 再録版

◆春秋のお彼岸やお盆には、墓参りをしたり、坊さんにお経をあげてもらふが、それ以外はお寺と接触がない。ふだんの生活も、仏の教えとほとんど関係がない。そんな中で、最近印象に残ったのは、寺を対象にした『住職』

という雑誌が「安楽死」の問題をとりあげ、仏教の各宗派に公式見解を聞いて特集していたことだ◆米国のニュージャージー州最高裁が、医学専門家が回復の見込みなしと認めた場合、人工呼吸装置を取り外すことができるとして、カレン・クインランさんの「死ぬ

権利」を認める判決を下したのは、昨年三月末のこと。以来その是非をめぐって、さまざまな論議がかわされていくのはご承知の通り◆そうして、この特集で見る限り、この判決をどう考えるか、統一した見解は仏教界の内部にもまだないようだ。もっとも、判決は

## アンケ「安楽死」

妥当だと積極的に肯定する見解はみられず、目立つのは「自然死以外は許されない」「安楽死はまさしく他殺だ」「殺生戒を犯す大罪だ」といった、この判決を認めるべきでないという批判派だ◆「問題はかけがえのない、地球より重い生命なのだ」「現時点のあさ

はかな知恵で生命の尊厳を割り切つてはいけない」「苦の自覚の上に生命の大肯定がある」といった論調は、さすがに宗教家らしいが、反面、「当否には触れたくない」「論議したくない」といった判断保留の回答も多いのは、問題の難しさのためだろう◆そういえば、安楽死問題ではこれまで宗教家の発言がそれほど聞かれなかった。なん

だか釈迦に説法めくが、こうした問題に対してハッキリした見解を示し、人生の道しるべの役割を果たしていくことにこそ、仏教再生の道があるのではないかと、僭越（せんえつ）ながら考えたりした。

▲読売新聞「編集手帳」昭和52年4月7日付朝刊

次のように評している。

最近「東洋思想」や「仏教」を自己のものとして問い直そうという関心が見られ、一般にも広く深く浸透してきたようだ。昨秋、吉本隆明氏の「最後の親鸞」が刊行され、幅広く読まれたのをはじめ、「仏教」をテーマとした小説、絵画、音楽など芸術作品に豊かな成果がみられる。丹羽文雄、武田泰淳、大内青圃氏など過去十回の受賞者もそうだが、今年度の平山、土岐氏が

取り組んだ軌跡は、現代の仏教とは何なのか、日本文化と仏教のかかわりとは何か、を問い続けたものといえる。また山田師の厳しい人格と社会批判は

今日の仏教教団のもつ病巣を鋭くつき仏教が現代とどう切り結んで行くべきかを示している。三人に共通していることは、深い宗教的体験から自然にあふれでる表現が、人の心をうつ点にある。（三月二十六日、夕刊）

## 戦没者の33回忌法要

沖繩で浄土宗と日蓮宗

浄土宗と日蓮宗では、第二次世界大戦最後の激戦地「沖繩」において、尊い犠牲となられた戦没者の第三十三回忌追悼法要を厳修した。

（浄土宗）

浄土宗では三月二十九日、糸満市摩文仁の丘において慰霊追悼法要を執行。法要は岸信安門主が、ご老齢にもかかわらず出向かれて大導師をつとめられた。この日は四百名が本土から参列し、全員合掌して念仏のうちに戦没者を追悼し、そぞろ三十三年前のあの悲惨なかに生命をささげた人々の魂をなぐさめた。

（日蓮宗）

日蓮宗では四月三・四日の両日にわたって、約五千五百人が摩文仁の丘に結集「沖繩戦没者追悼法要」を、望月日滋管長大導師のもとに営んだ。とにかく五千人以上の参列者のため入場順だけでも大変なことだったが、参列者の規律ある行動により荘嚴なる法要で、平和の祈りとお題目の声は沖繩全局にひびきわたった。

# 仏教伝道文化賞の贈呈式

文化賞 平山氏・山田師、功労賞 土岐氏

第十一回仏教伝道文化賞（仏教伝道協会・宮本正尊理事長）の贈呈式は、三月二十六日午後一時半から、東京・芝の仏教伝道センタービルで行われた。

今回の受賞者は、B項（文芸・美術・音楽・評論・その他）より日本画家の平山郁夫氏と、C項（伝道者・実践者・その他）より花園大学学長の山田無文師、また功労賞は芸術院会員の土岐善麿氏。贈呈式は来賓多数参列のなかで、沼田

恵範営務理事の礼拝、葉上照澄顧問の三浦依文のあと、佐藤密雄選定委員長より選定委員会の審査状況報告があり、宮本正尊理事長から各受賞者に賞状・記念品が贈呈された。

つづいて平山氏の受賞にたいして、作家の井上靖氏、山田師には宮本正尊氏、土岐氏には能の喜多実氏がそれぞれ賛辞を述べたあと披露の宴がもたれたが、今回の仏教伝道文化賞について読売新聞は

# 新生 全日仏青が発足

## 新陣容で決意も新たに

全日本仏教青年会（全日仏青）は、新春に発足し、三月十二日に「宗派・都道府県仏教代表者会議」を浦和市の埼玉県仏教会館で開き、役員選出ならびに新体制による組織強化などを協議した。

当日は、WFB日本大会準備委員会総会（実行委員会発足）と重なったが、全国より二十一団体・四十名が出席し、三浦依文のあと、先に新理事長に就任した平原隆秀師が「お互いに意見を出しあい共に歩みたい」と挨拶した。つづいて大島見道師（埼玉県仏会長）、河野亮永師（全仏組織専門委員）、増田貞円師（前全日仏青理事長）が挨拶し、議事に入った。

### ①役員選出

先に平原隆秀理事長と鈴木永城事務局長決定をみているので、その他の役員について協議され、次のように役員が選出された。

△副理事長▽大内啓輔（山形県青年仏教会） 雲井世雄（神戸仏教青年連合会） 永倉嘉文（神奈川県仏教青年同友会）

△常任理事▽中村義英（智山） 西郊良光（天台） 須賀野秀治（豊山） 門脇允元（曹洞） 能登海正（日蓮） 江口定信（浄土） 大越孝一（茨城） 田中光成（東京仏青） 浜野龍生（埼玉仏青） 海老信行（大阪仏青）

これら役員は近々開催予定の総会までの残任期間の任期で、総会の席上におい

て再び役員改選が行なわれる。

### ②予算・事業

加盟負担金は年間一万円として、昭和五十二年度よりとする。事業方針の概要として事務局より次のように説明があった。

## 理事長就任に当って

全日仏青理事長

平原 隆秀



去る一月十二日、東京芝の仏教伝道協会を会場に開催された全日本仏教青年会、宗派、都道府県

仏青代表者会議（再建のための理事会）の席上、増田貞円師の後をうけ、不肖私

が新理事長に就任いたしました。ご承知の通り全日仏青は昭和四十九年十一月の「全仏知恩院大会」を機縁として、「新生」として発足したわけですが、諸般の事情で、組織づくりの第一歩から沈滞の域を脱することができずに今日に至って

しまった訳です。

- 一、第二十五回全仏埼玉大会参加
- 一、第十二回WFB日本大会参加
- 一、仏青未組織地域への組織化促進

### ③機構・組織強化

まず仏青未組織地域に対する組織化が急務であるが、とにかく都道府県単位の仏青は教団体しかなかく、この強化に全力を注がねばならない。とともに市町村仏青、大学仏青の組織強化に積極的に取り組むことで、より充実した機構が誕生するのではないかという意見が出された。

この度は「新生」を誓い合った私を合

む多くのメンバー全ての責任において、新たなメンバーを加えて、今後の組織確立に邁進すべきだと考えます。幸いにして、全国には有能かつ熱意と理解の勝友が居られ、宗派を越えて、地域を越えて全一仏教青年の運動を展開しようとする気運があふれており、また父母に等しい全日仏当局におかれても、微力な私共

に大いなる期待を寄せられ、最大限の援助と協力を惜しまぬと、激励いただいたお礼です。期待にそうべく頑張る覚悟でございます。二回にわたる代表者会議において多くの方々から、なみなみならぬ意気込みと、積極的なご発言に接したわけですが、ただただ私に課せられた使命を着実に、全力を傾注して遂行すべしと自らに誓うのみであります。

ことさらに全日仏青に限ったことではありませんが、組織は一部の人によって運営すべきものではありませんし、させるべきものであってもなりません。地に

足をふまえぬ高望みに終始すべきではありません。実現の可能なものからドンドン手をつけたいと存じます。本年度の事業の根幹となるべき事項は先ずもって「都道府県仏青結成の促進」を挙げたいと存じます。埼玉、神奈川、兵庫、山形の四県仏青が、すでに組織されておりますが、組織化については、様々な困難がつきまとうとおもいますが、例え一県でも二県でも結成されれば……と念じて努力を尽してみたいと存じます。

本年六月には仏青東北会議を行う計画もたてています。きれいごとにと終らず、汚れ仕事をしながら現実在即した仏青活動とを考えています。

本年は埼玉大会もあり、来年は世界大会もありますので、可能な限り盛り立て役をしたいとおもいます。全日仏青は現段階では事業団体というより連絡協議会的な役割りが強くなると思えます。

仏青の地についての事業は各地域仏青が社会のニーズを探りながら、企画し強力に行っていくべきだと存じます。宗派仏青、地域仏青のメンバーは青年の意気と情熱をもって仏青活動をし、また社会と密接な連りのもとに仏教を社会に生かしてゆくべき時だとおもいます。

全日仏青丸も遅々としながらも、先輩諸師の深いご理解と協力を賜わりながら、本来の姿へと前進して行くよう頑張ることを誓います。

全日仏青丸も遅々としながらも、先輩諸師の深いご理解と協力を賜わりながら、本来の姿へと前進して行くよう頑張ることを誓います。

# 全日仏で推せん候補

## 七月の参議院選挙に

七月に施行が予定されている参議院議員選挙にあたり、全日本仏教会では立候補予定者に推薦状を交付し、支援することとなった。

この全仏推薦は、加盟各宗派・県仏・団体に対し、その推薦方を要請し、候補者が推薦団体と密接な関係を有する外護

者、もしくはその可能性のあるものとして申請のあったものである。

推薦候補者はほとんどが加盟宗派の檀信徒で、当選の際には仏教徒としての大いなる活躍が期待され、各位の誠意ある強力な支援が望まれます。

- ①推薦団体 ②略歴 ③現職

### バン格拉ディシユの孤児に愛の手を!!

バン格拉ディシユは、印巴戦争の影響や、モンスーンなどの天災によって大きな被害をうけ、おびただしい難民に混じって、幾多の孤児が飢えと病いに苦しんでおります。

ダッカとチッタゴンに在る「仏教孤児院」には四百名にのぼる孤児が収容され、仏教教育をうけ、リハビリテーションを通じて、社会復帰に努力しておりますが、日常の食糧、衣類、薬品にいまなお相当の欠乏を見ており、そのうえ孤児院に入れない孤児がまだまだ多数いるという窮乏を、同じ仏教徒として黙視し得ない現状であります。何卒これら幾多の孤児救済のために皆様の善意を伝達いたしたく、救済資金の募集をいたしておりますので、御

協力下さるよう伏してお願い申し上げます。

#### 目的

バン格拉ディシユ国ダッカ市在ダンマラージカ仏教孤児院・チッタゴン市在アグラサラ仏教孤児院に対する救援

#### 送金先

東京都台東区西浅草一の五の五 (財) 全日本仏教会事務総局  
振替 東京2・59547

(財) 全日本仏教会

口座 東海銀行浅草支店

一三五―四三七 全日本仏教会・鎌田良昭

主唱 財団法人 全日本仏教会

#### 主唱

財団法人 全日本仏教会

#### 一 全国区

村田直治 33歳 自民・新



①曹洞宗②駒沢大経済卒 衆議員議員秘書 青年会議所会員 駒沢大学評議員 詩人連盟会員③曹洞宗僧侶

#### 一 地方区

#### 香川県

真鍋賢二 41歳 自民・新



①香川県仏教会②岐阜大農学部卒 大平代議士秘書 通産大臣秘書官 外務・大蔵大臣秘書

#### 中国仏教会来日延期

四月二十五日に来日が予定されていた中国仏教会代表団は都合により、来日が延期となりました。関係各位ならびに本山に對しおわび申し上げます。

### バン格拉救援寄金

五万円

木辺宣慈 (滋賀)

三万二千元

花園婦人会 (岡山)

三万円

金剛院 (東京)

一万円

諸田万作、木村和正 (東京)

### 仏齒寺長老歓迎に協力を

スリランカ仏教界の長老、チャンタナダ大僧正(仏齒寺管長)が、韓国での仏誕二千六百年祭の帰途、五月二十七日から一週間ほど日本に立寄ります。ご承知のようにスリランカは外貨制限が厳しく、滞在費はどうしても日本で負担せねばなりません。

キャンディーの仏齒寺は日本仏教徒が必ず参拝し、多くの方々歓迎をうけております。この機会に麻布照海師、丹羽廉芳師等が発起人となり「仏齒寺管長チャンタナダ長老歓迎委員会」を作り、委員一名が最低一口一万円を出資し歓迎すべく準備中です。一人でも多くの方に呼びかけております。(全仏国際部)

## 寺院用具

浅草通り五鳳会加盟店

株式会社 決田商店

東京都台東区寿2-10-9 (地下鉄田原町駅前)

電話 代表 (841) 4965

昭和52年5月1日

◇掲◇示◇板◇

浄土宗と黒谷浄土宗の合同成る

▼浄土宗と黒谷浄土宗の合同が、三月八日に正式に成立した。これは分派して以来三十二年ぶりのことで、法然上人開宗八百年を機会に双方で話し合いがすすめられていたものである。

全仏事務局人事

▼全日本仏教会事務局では左のような人事移動が行われた。  
 財務部長・小峰令丸・退任  
 文化部長・花木義光・新任 真言智山  
 財務部長・市橋俊昭・文化部長より  
 財務部長・宮沢フジ子・新任  
 総務局長・宮沢フジ子・新任

讃仰会が公開討論会

▼仏教讃仰会では四月八日午後六時より東京・腕壳ホールで、第十九回花まつり記念「公開討論会」を開催した。テーマ「政治家に宗教心を聞く」ということで、自民党をはじめ各党より一名の代表と、仏教側の代表による討論会で、お互いに注文等が出され盛会であった。

兵庫県仏事務所変更

▼兵庫県仏教会では、四月一日をもって事務所を左記に変更しました。  
 (新事務所) 神戸市兵庫区西柳原町十の十 福海寺内

WFB執行委員会日程

▼WFB執行委員会は、五月二十一日に京王プラザホテルで開かれる。これに先だちブーン会長等は十九日に来日予定。二十日の夕方に歓迎会が開かれる。

哀悼

長田恒雄氏(詩人) 三月三十日急性肺炎を併発して死去、七十四歳。日本現代詩人会、ペンクラブ会員。同人詩「現代詩研究」を主宰。作品に「蓮如上人」など仏教的なものも多い。

林錦東師(台湾・宝覺寺住職) 四月六日心筋梗塞のため遷化、五十七歳。妙心寺で修行、花園大学に学ぶ。日本人遺骨一万五千体を保管、納骨堂を建立し回向する親日家。本葬は五月十七日二時。

WFB事務局録事(4月)

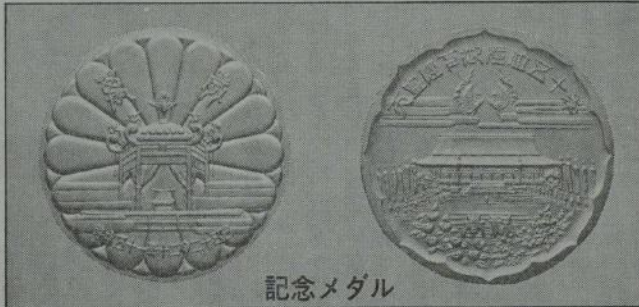
- 六日 局内会議
- 辻頭隆師来局
- 十二日 各委員会委員長会議
- 総務委員会
- 十四日 渉外委員会
- 十六日 会議委員会
- 十八日 局内会議
- 十九日 式典委員会
- 二十五日 接待委員会
- スパ工師来局

事務局録事(4月)

- 六日 局内会議
- 八日 仏教讃仰会花まつり出席
- 十八日 常務理事会
- 局内会議
- 二十二日 国際専門委員会

第十二回世界仏教徒会議(WFB)日本大会協賛

天皇陛下におかれましてはこのたび、日本の歴史に永遠に輝く御在位五十年の御慶賀をお迎えになられました。天皇陛下の幾久しいご健勝、世界と日本の平和を念じつつ特別発行されました記念の品を謹んでご案内申し上げます。

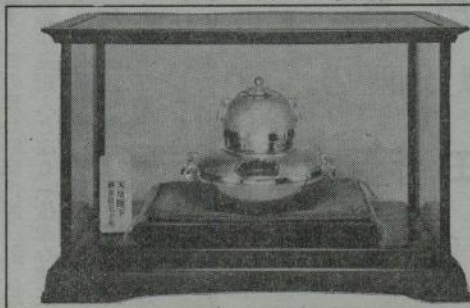


記念メダル

大蔵省造幣局品位純度検定保証極印<印>入

■純金製	直径50mm・重量98g	350,000円
■純金製	直径35mm・重量28g	100,000円
■純銀製	直径50mm・重量50g	10,000円

豪華本桐製ご愛蔵ケース付



黄金茶釜 幸福

21,000円

高純度特殊合金製(純金仕上げ)  
 高級ガラスケイス  
 天地26%・左右40%・奥行20%  
 巻足台・木製タテ・紫銅フロン付

お申込方法

●おはがきの場合

おはがきに下の記入例の横に品名・価格・数量・住所・氏名・電話番号等ご記入の上ご投函下さい。

申込書 (例) 記念メダル 100,000円 1個 〒ご住所 〇氏名 TEL	郵便はがき 〒1162-〇〇 東京 都 新宿区 市ヶ谷 田町二一七番ビル 仏教タイムス社 事業部記念品係
--	---

●お電話の場合

03(269)6701

仏教タイムス社事業部  
 記念品係

●代金は現金お受け取りの時に支払下さい。  
 ●梱包料・送料は金額出方負担でお届けいたします。また、万一商品破損等が生じた場合は責任をもち取り替えます。  
 ●本記念品の取扱いは日興株式会社(代)代行し万金を期して行います。(証明番号B27-253)

昭和五十二年五月一日発行  
 五月号 第二二八号

発行人 鐔 湖 正 浩  
 編集人 来 馬 規 雄  
 発行所 財団法人

全日本仏教会

東京都台東区西淺草一ノ五ノ五(東京本願寺内)  
 電話 〇三(八四三)六三四一〜三